

研究課題 (テーマ)		学習相談室による物理教育の充実	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	工学部	教授	福原 忠

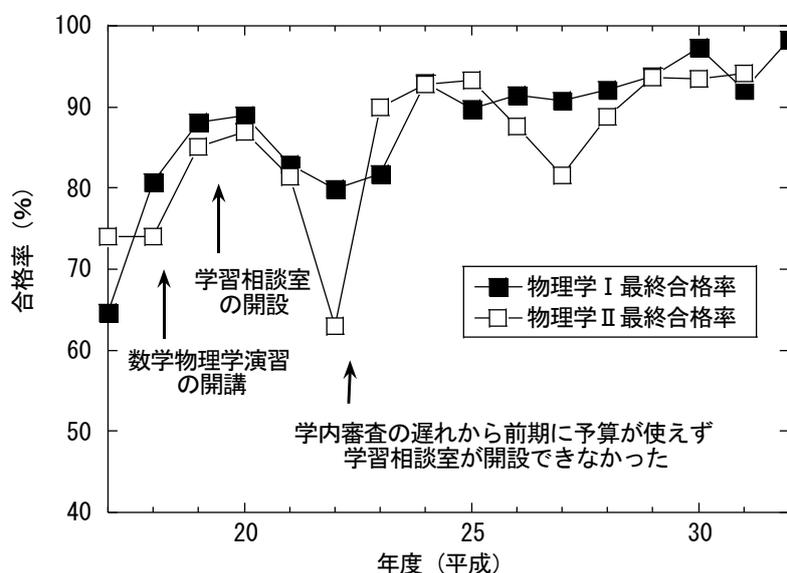
## 研究結果の概要

工学部基礎科目として物理学(力学・電磁気学)を考えると、いたずらに講義内容を軽減することなく、必要な内容を理解をさせた上で、適正な合格率を維持することが必要である。教養教育センターの物理学担当者は、下図の通り、平成18年に数学物理学演習の導入、19年に本プログラム(学習相談)の導入と努力を重ね、平成17年度以降、一切講義内容を軽減化することなく、高い合格率を維持している

しかしながら、このところの物理学I・IIを必修とする学科における数十名におよぶ定員増に伴って再試験対象者は増加し、相談員の負担増大による面接指導の質の低下が懸念された。一方、令和2年度は新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で、学習相談は遠隔で行われた

- ・学生相談員の研修会の実施
- ・相談員の事前学習の徹底、および、面接指導時間の確保

を行って面接指導の質の維持に努めた結果、遠隔実施にもかかわらず、下図の通り、令和2年度の物理学Iにおいては約98%(福原担当授業)の学生が最終的に合格した。



## 今後の展開

今後も、学習相談室の活動を通じて、本学の基礎教育の充実、および、大学の活性化を図ってゆく